

2022年3月31日

## —休刊のお知らせとウインキュービックの今後の環境への取り組み—

ウインキュービックは1981年に創刊したアロハストリートマガジンの休刊を決定しました。今後は1999年に開始したインターネットサービスと SNS に集中していきます。そもそもウインキュービック(Wincubic.com, Inc.)は社名の通り、インターネットによるサービスの提供と情報発信のメディアとして創業しましたが、当時はインターネットが一般に普及し始めてまだ間もないころでした。会社設立は早すぎましたが、これからはインターネットの時代になると確信し、当時兄弟会社が発行していたマガジンを吸収して紙とインターネットのメディアミックスとしてウインキュービックを再スタートさせ現在に至っております。

コロナによって海外旅行が遮断されたため、マガジンの制作も一時休止していました。その間、大きな声となって聞こえてきたのが「温暖化問題」です。それも地球規模の問題としてあらゆる手段を講じて二酸化炭素の排出を減少させるか、なくそうと多くの国が取り組んでいます。ところで、紙の抄造には多くの原材料とエネルギーを使います。すなわち、紙のマガジンを発行することで二酸化炭素の排出量の増加に繋がっているのです。私たちは環境悪化の手助けをするつもりはありません。そこで損得抜きで休刊すべきだと結論に至りました。

参考までに二酸化炭素の排出量を計算してみました。年6回発刊して、年間約50万部発行していましたが、それだけの紙を抄造するために746トンの二酸化炭素を排出していることがわかりました。製紙工程以外に印刷工程、製本工程からでも、そして製品を運ぶ運送でも二酸化炭素を排出しています。これに対して、ウェブや SNS



での情報発信ならコンピューターによって完結されます。アロハストリートで使われているコンピューターから排出される二酸化炭素は年間5.2キロです(※1)。

インターネット活用のメリットはこればかりではありません。最新の情報はウェブやSNSの方がタイムリーな情報が得られます。ネット環境は日に日に改善され、今やホテル内はもちろんのことワイキキの多くの場所でフリーWi-Fiが使えます。日本でのスマートフォン普及率も2021年5月17日現在で30代は100%近く、40代は96%、50代は90%そして60代でさえ75%までになっています(※2)。スマートフォンユーザーがここまで増え、Wi-Fi環境も改善しているので、スマートフォンのハワイでの利用率もさらに高くなるでしょう。ハワイでは不思議なくらい紙の情報誌が利用されていましたが、環境問題と合わせて情報取得の利便性とスピード、さらに衛生の観点からも紙からウェブに移行されるのは間違いありません。

今後は、自らが二酸化炭素排出を抑制していくだけではなく、温暖化に歯止めを掛けようと真摯に努力している企業をメディアとして積極的に紹介していきたいと考えています。ハワイも今以上に温暖化を抑制する努力をしていかないと楽園状態がいつまでも続いていくとは思えません。日本人観光客とハワイ在住者の方にとって価値のあるメディアでありたいと考えているウインキュービックです。微力ですが、皆様のお役に立てるメディアとしてさらに意欲的に取り組んでいきたいと考えております。

※1 日本製紙グループウェブサイトより、※2 インターネットマルチデバイス調査より

敬具

Wincubic.com, Inc. dba Aloha Street  
代表取締役社長 和田隆史

